

札幌市都心部における社会実験とまちづくり計画の相互連携に関する研究

A Study on the Interrelationship between Social Experiments and Planning Initiatives in the Central Area of Sapporo

建築都市空間デザイン専攻 空間計画講座 都市地域デザイン学研究室 戒能陽香

Abstract

In recent years, social experiments have been conducted to improve vibrancy and walkability in Sapporo's city center. This study examines 18 experiments implemented between 2018 and 2025 and analyzes their relationship with the Third City Center Urban Development Plan through interviews and document review. The experiments were classified into three types by purpose, and their roles in planning were identified as: building implementation frameworks, providing management knowledge, enhancing area value, and reflecting on-site issues. The results indicate that social experiments influence planning not only through measurable outcomes but also by shaping planning priorities and supporting collaboration among stakeholders.

Keywords: Social experiments, Urban planning, Walkability, Area management

1. はじめに

近年、にぎわいの創出等を目的として、場所や期間を限定して施策を試行する社会実験が多く行われている。札幌市都心部においても、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン¹⁾に示される「居心地がよく歩きたくなる」空間の形成に向けた社会実験が多く実施されている。

社会実験に関しては、個々の社会実験の試行と結果について多くの研究が行われている。また小浦ら(2024)²⁾は、地区レベルでの社会実験を含む複数の実践と、それにかかわる計画の関係を整理している。一方で、まちづくり計画における個々の社会実験の位置づけや、社会実験がまちづくり計画に与える影響については明らかにされていない。

これを踏まえ、本研究では、第3次都心まちづくり計画(以下、3次計画)の策定が行われている札幌市都心部において、近年の社会実験を対象として、社会実験の内容と、まちづくり

計画の相互関係を調査・分析し、社会実験・まちづくり計画に提案を行うことを目的とする。

2. 調査方法

2-1. 調査対象とする社会実験

2018年から2025年にかけて札幌都心部で行われた18の社会実験を対象として調査・分析を行った。(図1, 表1)

2-2. 研究方法

対象の社会実験とまちづくり計画の関係について、札幌市都心まちづくり推進室および、札幌駅前通まちづくり株式会社に対して、社会実験の実施プロセス及び、計画との関係性に対するヒアリング調査を実施した。併せて、公開されている計画書、報告書の文献調査を行い、ヒアリング情報と計画内容や制度との整合を確認した。

また、3次計画の計画案、検討会³⁾および、〈第一部会〉居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会の会議記録⁴⁾を踏まえ、社会実験

表1, 対象の社会実験一覧

番号	社会実験	開催年	実施主体
1	さっぽろわさわざわ ストリート	2022	主催:札幌都心交通研究会
2	道路空間利活用により賑わい 空間を創出する社会実験	2024	主催:札幌都心交通研究会 事務局:札幌大通まちづくり(株) オブザーバー:北海道開発局,運輸局,警察,札幌市
3	荷捌き整序化により賑わい空間 を創出する社会実験	2024	主催:札幌都心交通研究会 事務局:札幌大通まちづくり(株) オブザーバー:北海道開発局,運輸局,警察,札幌市
4	創成東まちのリビング	2018	主催:札幌市
5	創成東まちのリビング	2019	主催:札幌市
6	おそとワーク	2022	主催:道庁南エリア研究会 後援:札幌市
7	do it your street!①	2023	主催:道庁南エリア研究会 後援:札幌市
8	do it your street!②	2024	主催:道庁南エリア研究会 後援:札幌市
9	do it your street!③	2025	主催:道庁南エリア研究会 後援:札幌市
10	MEET MARKET	2023	主催:slatte sapporo, 札幌駅前通地区まちづくり プラットフォーム検討会議
11	冬のチ・カ・ホのホイクシツ	2023	主催:保育カケル, 札幌駅前通まちづくり(株), Nomaps実行委員会
12	時計台前仲通り 歴史と文化が 息づく心惹かれる夜	2024	主催・企画:ストリートデザインスクール スケール ルネ
13	とけまち再開拓	2025	実施主体:札幌駅前通地区まちづくりプラット フォーム検討会議
14	PLACEMAKING SAPPORO	2021	共催:札幌都心プレイスメイキング実行委員会, 札幌 市
15	PLACEMAKING SAPPORO	2022	主催:札幌都心プレイスメイキング実行委員会 共催:札幌市, さっぽろまなびまくり社実行委員会
16	プレイスメイキング チャレンジ	2023	主催:一般社団法人SAPPORO PLACEMAKING LABO 共催・後援:札幌市
17	プレイスメイキング チャレンジ	2024	共催:一般社団法人SAPPORO PLACEMAKING LABO, 札幌市
18	PLACE1	2024	主催:札幌市, 一般社団法人SAPPORO PLACEMAKING LABO

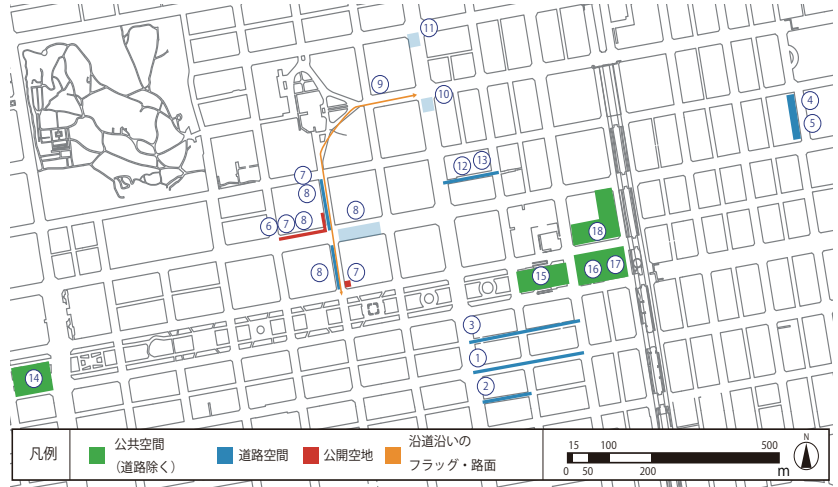


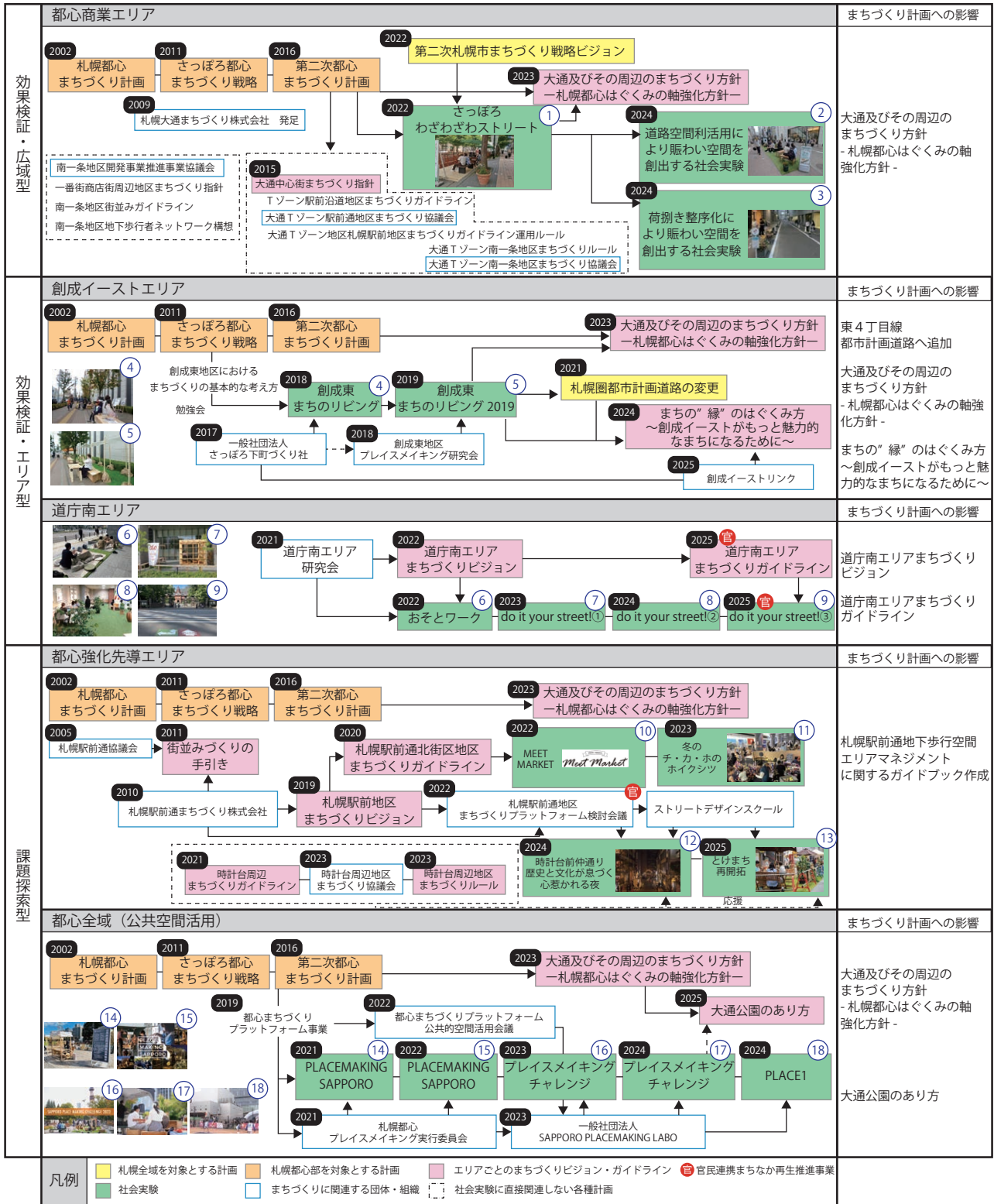
図1, 札幌都心部における社会実験

が3次計画に及ぼす影響について分析を行った。
 本研究において「まちづくり計画」は札幌市が策定するまちづくりに関する上位計画やエリアに対する指針に加え、エリアごとに策定されたまちづくりビジョン・まちづくりガイドラインを含むものとし、広くとらえるものとする。

3. 対象エリアにおける社会実験の動き

3-1. 社会実験の目的

対象の社会実験について、3次計画との関係が弱い社会実験 10. 11. 18 を除いた 15 の社会実験を対象として、実施目的に応じて、以下の3つに分類を行った。



画像出典： 画像1-5.14札幌市HP 画像6-9道庁南エリア研究会note 画像10チ・カ・ホHP 画像11.15 Nomaps HP
 画像12.13札幌駅前通まちづくり株式会社HP 画像16.17まなびまくり社HP 画像18北海道ニュース UTB公式youtube

図2. 札幌都心部における社会実験とまちづくり計画の関係

【効果検証・広域型】

社会実験の実施エリアだけでなく、都心全体へ手法の応用を検討しながら、社会実験によってその効果を検証する都心商業エリアが分類される。荷捌き整序化・道路空間利活用についての社会実験を行った。その対象地として、第2次都心まちづくり計画でもターゲット・エリアとして定められている南一条通り・シャワー通り・123歩通りが選定された。

【効果検証・個別型】

ある取組によるエリア価値向上への効果を、社会実験によって検証するエリアが分類される。クランク解消などの取組を示した東4丁目線の都市計画道路への追加を目指し社会実験でその効果を測った創成イーストエリアや、北海道庁旧本庁舎以南のエリアへの人流形成を目的とした、道庁南エリアの二つが当てはまる。

【課題探索型】

社会実験による実践を通じた課題の発見を目的としている都心強化先導エリア、都心全域（公共空間活用）の二つが分類される。都心強化先導エリアでは、「ストリートデザインスクール」のプログラムとして社会実験を通じたまちづくり人材の育成を目的としている。都心全域（公共空間活用）では、主に大通公園などの都心のパブリックスペース（以下PS）において、官民連携体制の構築や、PSの多様な利活用・人材育成等を目的として社会実験を行っている。

3-2. 社会実験の実施団体

ヒアリングおよび文献より、対象社会実験すべてに札幌市が関わっており、官民連携体制があることがわかった。

3-3. 社会実験とこれまでのまちづくり計画

対象の社会実験を、関連するまちづくり計画および団体についてエリアごとに時系列で整理を行った。（図2）

道庁南以外のエリアでは、社会実験の目的設定に、第二次都心まちづくり戦略など上位計画が関係していることがわかる。一方で、道庁南は第二次都心まちづくり計画に位置づけのなかったエリアだが、3次計画では、社会実験の結果を踏まえ策定されたまちづくりビジョンやガイドラインを意識した記載がある。社会実験は上位計画における位置づけの影響を大きく受けた目的設定が行われていると考えられる。

また、社会実験を踏まえたまちづくり計画への影響として、まちづくりビジョン・ガイドラインや指針など、エリア内の方向性をより具体化するまちづくり計画の策定に寄与しているこ

表 2. 社会実験の調査項目

エリア	目的	名称	歩行者・ 滞留者の 影響	利用行動 の実態調 査	交通への 影響	利用者の 評価・受 容性	商業・出 店への影 響	マネジメ ントに関 する知見	
1	都心商業	さっぽろわざわわストリート	●		○	○	○	○	
2		道路空間利活用により賑わい空間を創出する社会実験			●	○		○	
3		荷捌き整序化により賑わい空間を創出する社会実験	●	○		○	○		
4	イ 創 イ ス ト	創成東まちのリビング	○	○		●			
5		創成東まちのリビング	○	○		●	○		
6		おそとワーク		●		○			
7	道 庁 南	do it your street!①	●	●	○	○			
8		do it your street!②	●	○	○	○			
9		do it your street!③	●						
10	強 化 先 導	MEET MARKET	○	○			○	○	
12		時計台前仲通り	○	○	○	○	○	○	
13	都 心 公 共 空 間	とけまち再開拓	○	○	○	○	○	○	
14		PLACEMAKING SAPPORO					○		
15		PLACEMAKING SAPPORO					○		
16		プレイスメイキングチャレンジ					○		
17		プレイスメイキングチャレンジ				○			
凡例	● 第3次都心まちづくり計画に大きく影響を及ぼした調査項目（札幌市ヒアリングより） ○ その他実施した調査項目								

とがわかる。

3-4. 社会実験の調査項目

各社会実験の調査項目および、札幌市へのヒアリングで明らかになった、まちづくり計画に最も影響を与えた調査項目について以下に整理した。（表2）

定量的項目のみでなく、住民の意見を聞くアンケートなどの定性的項目もまちづくり計画に影響を及ぼしている。

4. 第3次都心まちづくり計画に社会実験が与える影響

3次計画の計画案について、社会実験について記載がある箇所を抜粋した。分析の結果、3次計画案策定において、社会実験が果たす役割は以下の4つに分類された。

4-1. 実施体制の構築

社会実験を実施する上で構築される体制によって、今後社会実験を進めやすくなる体制が整う。オブザーバーAの「社会実験を後押し」という発言からも、実施主体である札幌市やエリア関係者以外にも社会実験を推進しやすい関係性の構築がうかがえる。

4-2. マネジメント手法の知見

【効果検証・広域型】である都心商業エリア特有の役割といえる。社会実験で取り組んでいた荷捌き整序・道路空間利活用の手法は、実際に3次計画のウォーカブル推進を示す目標2の大きな指針となっていることが計画案の文書で確認された。

4-3. エリアの価値

【効果検証・広域型】【効果検証・個別型】で見られる。社会実験を含むエリアマネジメントの動きが、エリアの価値を向上させ、3次計画の重点的なエリア設定に寄与している。創成イースト・道庁南ともに、エリア内の路線がエリア

表 3. 第 3 次都心まちづくり計画案と社会実験の関係

社会実験	エリア	会議記録より社会実験についての発言(一部抜粋)	第 3 次都心まちづくり計画案への反映点	社会実験がまちづくり計画に果たす役割
効果検証・広域型	都心商業	<p>オブザーバーA(北海道開発局 札幌開発建設部) 「札幌開発建設部では、(中略)社会実験を後押ししておりますので…」</p> <p>委員B(札幌大通まちづくり株式会社) 「今年度実施した中通り社会実験での空間活用や荷さばき効率化の取組は、今後、他の中通りにも展開していけると思う」</p> <p>委員C(北海道大学 大学院工学研究院) 「ずっとマネジメントで頑張っているシャワー通りの話とか、今、そこから派生して周辺の中通りのマネジメントの話(中略)ですね。…それを計画の中でどう位置付けてあげられるのかも大事な話…」</p> <p>委員B(札幌大通まちづくり株式会社) 「…僕が大通地区の中ですごく大切だと思うのは南 1 条通です。(中略)中通りも今は荷さばき関係の効率化などの実験もやっているということで、エリアで特徴づけた大切な路線という考え方もある…」</p>	<p>・目標 2 「冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心」</p> <p>基本方針 2-1,2-2,2-3 の 大まかな指針の基準となっている(ヒアリング)</p> <p>【4-1】</p> <p>・季節や天候、目的等による選択性が高い、滞留空間や回遊を促す歩行空間の創出(2-1-2)(ヒアリング)</p> <p>・都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保(2-2-1)(ヒアリング)など</p> <p>【4-1】</p> <p>・魅力的なストリート空間や界限空間の形成(Ⅰ回遊・滞在機能の視点)(ヒアリング)</p> <p>・公共交通への乗り降りや沿道施設への荷さばきなど、アクセス環境の確保(Ⅱ交通機能の視点)(ヒアリング)</p>	<p>1.実施体制の構築</p> <p>2.マネジメント手法の知見</p> <p>3.エリアの価値</p>
		<p>委員D(一般社団法人さっぽろ下町づくり社) 「東 4 丁目通は(中略)今の沿道の機運とこの軸の設定をバランスよく考えて、余白を残した書きぶりにしていったほうが良いと思いました。」</p> <p>委員C(北海道大学 大学院工学研究院) 「東 4 丁目通で活発に道路のマネジメントをやろうという動きがある(中略)。札幌都心部はそういうマネジメントをちゃんとやろうと色々なアクターが頑張っている場所でもあると思うのですが、(中略)特に回遊のところはそここの成果をきちんとすくい上げられるような位置付けができるかと思っています。」</p>	<p>【4-1】</p> <p>・主要検討路線(東 4 丁目線)(4-1空間形成指標)(ヒアリング)</p> <p>【4-2】</p> <p>・道路整備を通じて、快適な移動空間、コミュニティを育むパブリックスペースを創出</p> <p>【5-2】</p> <p>(重点 3 : 2 つの展開拠点と展開軸)東 4 丁目線</p> <p>歩道拡張・クランク解消により生まれる空間の活用、四季を活かした様々な市民活動(ヒアリング)</p>	<p>3.エリアの価値</p>
		<p>札幌市都心まちづくり推進室</p> <p>「西 6 丁目線は道庁赤れんがと大通公園を結ぶ回遊動線としてまちづくりの動きと連携した魅力的なストリートの形成を検討していきたいと考えております。」</p>	<p>【4-1】</p> <p>・主要検討道路(西 6 丁目線)(4-1空間形成指標)(ヒアリング)</p> <p>【5-2】</p> <p>(重点 1 : 大通・創成交流拠点とはぐくみの軸周辺)西 6 丁目線</p> <p>エリアのまちづくりの動きと連動した魅力的なストリートの形成の検討(大通・創成交流拠点とはぐくみの軸周辺)(ヒアリング)</p>	<p>3.エリアの価値</p>
		<p>委員E(札幌駅前通まちづくり株式会社) 「マネジメントを継続していくには(中略)人材を集めていくのも結構大変です。(中略)それは頭の片隅にはあったほうが良いと思いました。」</p>	<p>【4-1】</p> <p>・柔軟かつ持続可能なパブリックスペースの利活用を実現する仕組みや体制の構築(2-3-1)(事例・ヒアリング)</p> <p>【4-2】</p> <p>・沿道からさらに奥のエリアに取組を展開し、回遊性を向上(類似内容)</p>	<p>4.現場課題の反映</p>
課題探索型	公共空間活用	<p>委員D(一般社団法人SAPPORO PLACEMAKING LABO) 「パブリックスペースの活用というキーワードが挙がっていて、何を目的にするかという、(中略)人材が発掘されていくということは非常に大きな特徴です。(中略)もうまちづくりをやりたいという気持ちでそういう子が出始めているのは非常に価値があって、(中略)パブリックスペースに人材育成という視点(中略)そこに振り切るのも面白い」</p>	<p>【4-1】</p> <p>・若者など多様な人のまちづくりへの参画を促進(1-2-1) (類似内容)</p> <p>・パブリックスペースにおける滞留や交流などの多様な活動ができる空間の創出 (2-1-2)(ヒアリング・事例)</p> <p>【4-1】</p> <p>・市民・企業・行政などの協働による、道路空間を含むパブリックスペースの多様な利活用(はぐくみの軸)(類似内容)</p>	<p>4.現場課題の反映</p>

内のまちづくりの動きの記事とともに主要検討路線として設定されており、都心内の回遊を進める上でこれらを重点的に取り組むことと記されている。第一部会 3 回計画案では、回遊・滞在機能の視点での評価における重要取組路線として、路線名と、上位計画における位置づけ、札幌市内の要所をつなぐ程度の記載に留まっていたが、5 回計画案では路線の説明にまちづくりの動向を踏まえるとの記載が増え、エリア内の動きを尊重した計画となっている。

4-4. 現場課題の反映

【課題探索型】で見られる。検討会には、両エリア社会実験の実施主体の一員である委員 D・E が参加している。社会実験を行う中で感じた人材育成に対する課題や PS 利活用の効果を語り、現場課題を計画に組み込む流れが見られる。3 次計画案では、マネジメント体制や仕組みの重視、PS 利活用の取組の方針が示されている。

5. まとめ

本研究では、以下の 2 点を明らかにした。

- ①社会実験は、その目的によって【効果検証・広域型】【効果検証・個別型】【課題探索型】の 3 タイプに分類される。
- ②社会実験がまちづくり計画に果たす役割である「実施体制の構築」「マネジメント手法の知見」「エリアの価値」「現場課題の反映」を踏まえた社会実験の実施が必要である。

【参考文献】

- 1) 札幌市 (2023): 「第 2 次札幌まちづくり戦略ビジョン」, <https://www.city.sapporo.jp/kikaku/vision/vision2/>, 札幌市 HP, 閲覧日: 2026 年 01 月 24 日
- 2) 小浦久子ら (2024): 地区レベルの実践と都心の計画をつなぐ計画論 岡崎市・佐賀市・前橋市の中心市街地再生への取り組みから, 公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集, 59 巻 3 号, pp. 1462-1468.
- 3) 札幌市 (2026): 「(仮称) 第 3 次都心まちづくり計画検討会」, <https://www.city.sapporo.jp/kikaku/downtown/plan/dai3toshinmachikentoukai.html>, 札幌市 HP, 閲覧日: 2026 年 01 月 24 日.
- 4) 札幌市 (2026): 「<第一部会>居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会」, <https://www.city.sapporo.jp/kikaku/downtown/plan/arukita-bukai.html>, 札幌市 HP, 閲覧日: 2026 年 01 月 24 日.